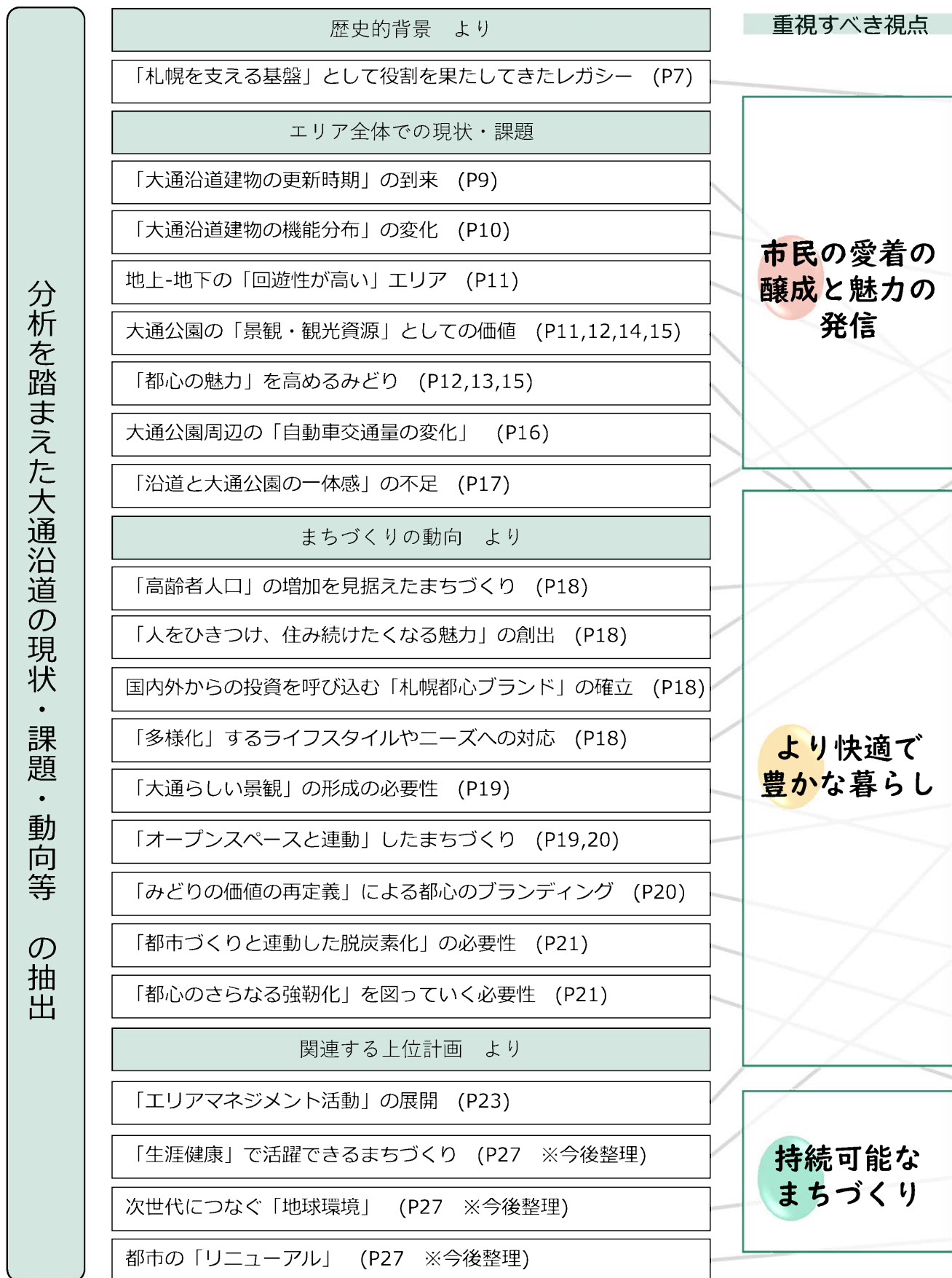


第3章 はぐくみの軸の将来像と取組の方向

この章では、第2章の分析等から導き出した目指すべき将来像と、将来像を実現させるための取組の方向を示しています。

3-1. 重視すべき視点、理念および目指すべき将来像の設定

ここまでの分析等より、特に重要と考えられるテーマについて以下の通り整理しました。



はぐくみの軸
沿道まちづくり
の理念

目指すべき将来像

キーワード

150年間で育まれてきた大通りの価値を再認識し
100年先の未来を“はぐくむ”

①大通がもつ札幌都心の象徴性が継承されている

象徴性

②大通ならではの文化・魅力・活力が育ち世界から投資や人材を呼び込んでいる

創造性

③大通らしい魅力あるライフスタイルが国内外に認識されている

ライフスタイル

④時代の流れに柔軟に対応した官民共同のまちづくりが進められている

まちづくり

⑤大通公園や沿道の公共的空間などが全ての人々にとって居心地の良い場として親しまれている

ユニバーサル

⑥訪れる人の心身の健康を増進させる環境が整っている

健康的な暮らし

⑦大通沿道で一体的な楽しさがあり安全・快適に回遊できる空間になっている

居心地がよく歩きたくなるまち

⑧東西に長い大通を快適に移動することができる

快適な交通環境

⑨大通の資源を活かしたはぐくみの軸ならではの景観が形成されている

都市の景観

⑩大通公園を中心に連続的にみどりの空間が形成されている

みどり

⑪2050年のゼロカーボン都市の実現に向けた先進的な取組が進められている

脱炭素化

⑫大通の防災機能が強化されている

防災

3-2. 将来像実現のための取組の方向

市民の愛着の醸成と魅力の発信

将来像①【象徴性】

大通がもつ札幌都心の象徴性が継承されている

大通は札幌のまちづくりを支える基軸としての役割を果たしてきました。「歴史的資源」「大通を介した東西・南北のまちのつながり」「沿道建物・道路・大通が一体となった空間」などを札幌都心の象徴性に関連する要素と捉え、以下の取組を通じて機能の向上等を図ることにより、都心全体のまちづくりを連結させる軸としての役割と札幌都心の象徴性をより高めることを目指します。

<取組の方向>

- a: 大通公園及び周辺の歴史的資源の歴史的価値を保存・活用する。
- b: 大通を挟む両街区や、その周辺の歴史的資源を繋ぐ南北の回遊性を高める。
- c: 創成川以西のにぎわいを創世川以東まで波及させる連続性ある空間を形成する。
- d: 沿道建物・道路・大通を一体的な空間として捉えられるような機能配置や運用ルールなどの仕組みの整備を行う。

イメージ図
今後作成

将来像②【創造性】

大通ならではの文化・魅力・活力が育ち、世界から投資や人材を呼び込んでいる

対象エリアは東西約2.5kmにわたっており、場所ごとに異なる地域特性を有していることから、様々な活動を受け入れる多様な空間の形成や都市機能の導入を図ることができる可能性を持っています。以下の取組により、様々な空間や機能が連続していくことで、大通ならではの”都市のブランド”が育っていくことを目指します。

<取組の方向>

- a: 既存の都市基盤施設や公開空気を創造的な活動や交流を生み出すパブリックスペースとして活用する。
- b: 地域の特性を生かした文化芸術活動を促進する。
- c: 周辺の集客交流施設同士の機能的な連携を誘導する。
- d: 多様な人材の集積・交流を促すための、変化に富んだ住・滞在環境を整える。
- e: 大通公園に面した街区らしい働き方ができ、多様な人材を引き寄せる創造的なオフィス環境を整備する。
- f: 建物の更新に合わせて機能の集積や複合化を図り、世界に誇れる魅力ある都市の拠点を形成する。

g: 大通沿道の公有地や低・未利用地を創造的な活動を生み出す場として活用する。

h: 大通公園の魅力をさらに高める。

イメージ図
今後作成

将来像③【ライフスタイル】

大通らしい魅力あるライフスタイルが国内外に認識されている

近年、生活環境に求められるニーズや個人のライフスタイルの在り方は多様化しています。日常的に訪れ利用する空間や大通公園に関する以下の取組が実現する事により、“大通らしい魅力的なライフスタイル”のイメージが広く醸成されて行くことを目指します。

<取組の方向>

- a: 四季を通じてだれもが利用でき大通公園との一体的な利用を意識したパブリックスペースを屋内外で創出し、日常利用の促進を図る。
- b: 沿道建物低層部へ賑わいや回遊性向上に資する用途を導入し、まちに開かれた空間とする。
- c: 建物中層部においては公園に対して内部の活動が滲み出す設えと使い方の誘導を図る。
- d: 大通公園がもたらす日常の憩いとイベント開催などによる賑わいの両立を図る。
- e: イベント開催時に大通公園と周辺の広場を一体的に活用していく。

イメージ図
今後作成

将来像④【まちづくり】

時代の流れに柔軟に対応した官民共同のまちづくりが進められている

まちの魅力を高めていくためには、既存の公共空間の柔軟な利活用を図るほか、施設整備等を検討する際には同時にその活用の在り方を探っていくことが必要です。以下の取組により、その場所をよく知った住民等の関係者と企業や行政等が連携して実験等を重ねることで、地域特性に馴染み、時代の流れに適應したまちづくりが進められることを目指します。

<取組の方向>

- a: 官民連携による公共空間を活用した実証実験を展開しながら、施策の検討を進める。
- b: 周辺の関係者と連携し、エリアの特徴を活かすマネジメント体制を構築する。
- c: 市民・企業・行政が連携した活発なまちづくり活動を促進する。

イメージ図
今後作成

将来像⑤【ユニバーサル】

大通公園や沿道の公共的空間などが全ての人々にとって居心地の良い場として親しまれている

札幌都心では地下歩行空間や地下街が発展しており、はぐくみの軸上も地上と地下の回遊性が高いエリアです。しかし、今後の高齢者人口の増加や生活スタイルの多様化などを見据えると、全ての人にとって快適な環境を整えていく必要があります。以下の取組により、誰もが気持ちよく利用できる環境の整備を目指します。

<取組の方向>

- a:地上と地下の接続箇所増築や案内表示の充実化等により利便性の向上を図る。
- b:建物や都市基盤施設、パブリックスペースなどのバリアフリー化を進める。

イメージ図
今後作成

将来像⑥【健康的な暮らし】

訪れる人の心身の健康を増進させる環境が整っている

生涯健康で活躍するためには、日頃からの心身の健康増進が重要です。以下の取組により、訪れる人が季節を問わず身体を動かすことができ、都心にいながら札幌の自然を享受できる環境を実現していくことを目指します。

<取組の方向>

- a:どの季節にも歩きやすい環境を創出する。
- b:建物の更新に合わせて、心身の健康増進に資する機能を導入する。
- c:大通公園の環境を建物内部に引き込む設えとする。

イメージ図
今後作成

将来像⑦【居心地がよく歩きたくなるまち】 大通沿道の一体的な空間を、安全・快適に楽しく回遊できる

大通沿道の建物は更新時期が近付いているものが多く、今後、建て替えが進んで行く可能性があります。その際にはオープンスペースや道路空間の在り方なども考慮した、歩行者の為の空間づくりが必要になります。以下の取組により、大通沿道が一体となった、居心地がよく歩きたくなるまちを目指します。

<取組の方向>

- a: 歩行者動線とは別に、集約的荷さばきのためのスペースや動線を確保する。
- b: 歩行者動線を阻害しない位置に駐車場出入口の設置を誘導する。
- c: 憩いや賑わいの場としての道路空間の柔軟な活用を検討する。
- d: 周辺街区と連携して駐輪対策の取り組みを行う。

イメージ図
今後作成

将来像⑧【快適な交通環境】 東西に長い大通を快適・円滑に移動することができる

はぐくみの軸は東西に長く、徒歩のほか、自転車、自動車、地下鉄、バスなど、多様な移動手段を選択できる場所です。周辺の自動車交通量など以前と比較して交通環境が変化していることなどを踏まえ、以下の取組により、大通沿道における快適で円滑に移動できる環境の実現を目指します。

<取組の方向>

- a: 多様な交通手段を選択できる交通結節機能を強化する。
- b: エリア内を快適に移動できる環境を整備する。
- c: 路上駐車対策等などを行い、自転車が安全に通ることができる空間を確保する。

イメージ図
今後作成

将来像⑨【都市の景観】

大通の資源を活かしたはぐくみの軸ならではの景観が形成されている

大通公園や周辺の歴史的資源は、景観・観光資源としても高い価値があります。今後新たな建物などによる景観の更新が図られる際は、以下の取組を通じて、周辺との調和を考慮しながら、大通らしいはぐくみの軸ならではの景観形成を目指します。

<取組の方向>

- a: 大通公園や沿道の歴史的資源などとの調和を考慮し、一体的な景観形成を図る。
- b: 屋外広告物の提出にあたっては大通沿道の景観に配慮する。
- c: 大通公園・大通沿道の環境やそこでの活動に配慮した配棟計画を行う。
- d: 街並みと調和した建物表情線を創出する。

イメージ図
今後作成

将来像⑩【みどり】

大通公園を中心に連続的にみどりの空間が形成されている

はぐくみの軸では、大通公園などの札幌都心の豊かなみどりを生かした都市のブランド力向上を図ることが可能です。以下の取組により、都心の魅力を高めるみどりが連続していくまちを目指します。

<取組の方向>

- a: 周辺のまとまったみどりや大通公園とのネットワーク強化を図り、みどりの質と量を向上させる。
- b: 大通公園と沿道のみどりとの一体的な繋がりを創出する。

イメージ図
今後作成

将来像⑪【脱炭素化】

2050年のゼロカーボン都市の実現に向けた先進的な取組が進められている

地球全体の課題である脱炭素化に向け、札幌市では2020年にゼロカーボンシティ宣言をしています。大通沿道で進む建物の更新の動きと連動して、以下の取組により脱炭素化を進め、持続可能な発展を目指します。

<取組の方向>

- a: 脱炭素化に対応した環境配慮型の建物の建設を誘導する。
- b: 既存建物の環境性能向上を図る。
- c: 面的エネルギーネットワークを構築する。

イメージ図
今後作成

将来像⑫【防災】

大通の防災機能が強化されている

札幌市では、平成30年に発生した北海道胆振東部地震において大規模停電によるブラックアウトを経験し、災害に強いまちづくりの重要性を再認識しました。以下の取組により、はぐくみの軸の防災機能を強化していきます。

<取組の方向>

- a: 防火性能の高い建物の建設や、災害時に活用できるオープンスペースの確保などを誘導する。
- b: 既存建物の耐震化を図る。
- c: 近傍の建物と連携したBCP性能の向上を図る。
- d: 大通公園や地下街の防災機能を強化する。

イメージ図
今後作成

第4章 ゾーン別の強化方針

この章では、はぐくみの軸上を4つのゾーンに分け、全ゾーン共通の取組の方向と、ゾーン別の強化に向けた取組の方向を整理しています。

4-1. ゾーン区分の設定

- 現状の沿道施設の立地状況や第2次都心まちづくり計画の考え方などから、ゾーン分けを行った
- ゾーンごとの特徴を踏まえながら、それぞれの魅力を高めていくことで相乗効果を生み出し、はぐくみの軸全体の価値を向上させていく

西Cゾーン

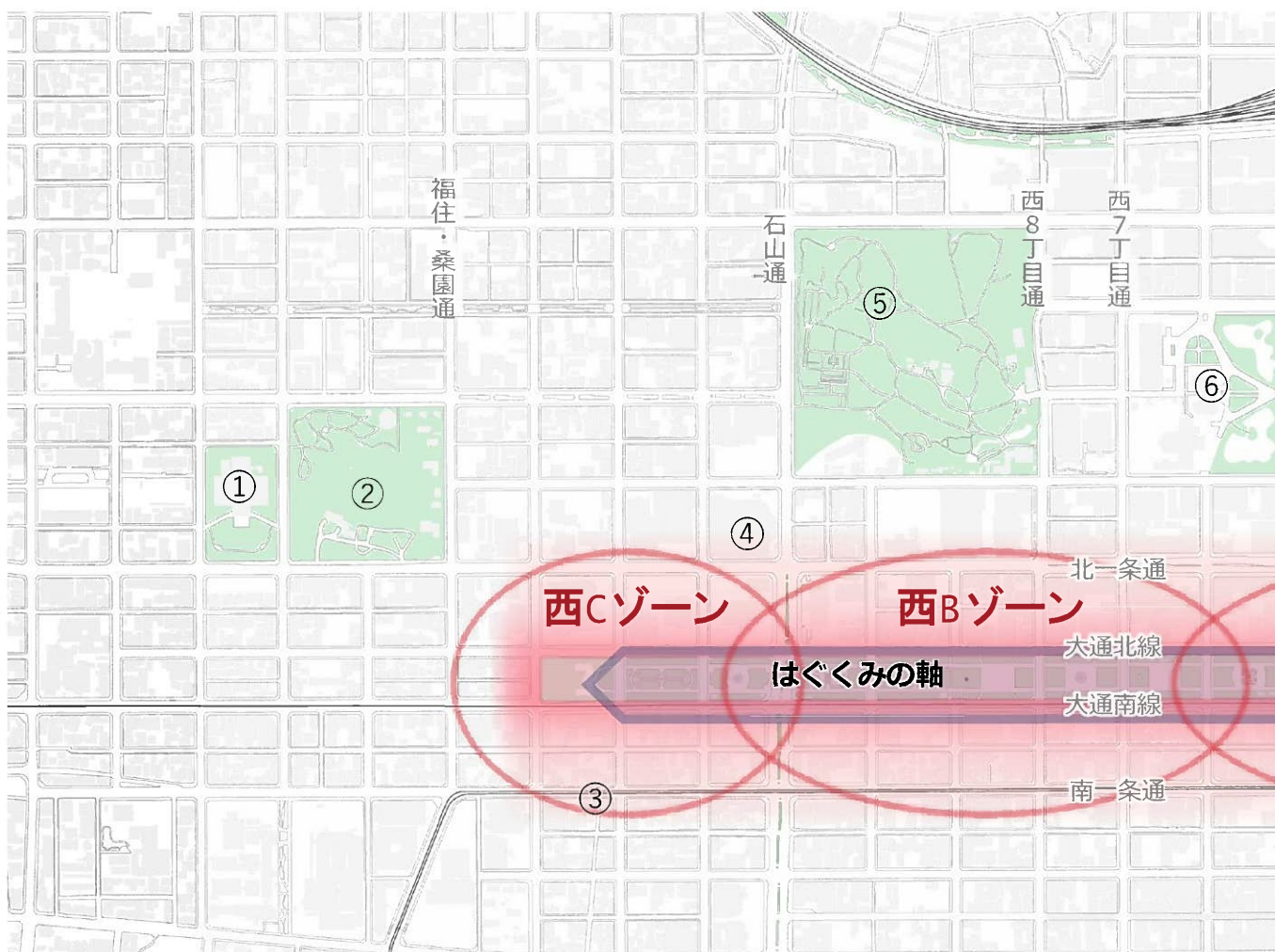
(概ねの位置: はぐくみの軸西端～石山通)

- 周辺を含めて文化芸術施設・歴史的資源や集客交流施設が立地しているとともに、地下鉄駅・路面電車・バスの停留所が近接しており、交通利便性が高いゾーン

西Bゾーン

(概ねの位置: 石山通～西6丁目)

- 多くの子どもが利用する大通公園の「遊び・イベントゾーン」を含み、沿道にはオフィス・集合住宅・ホテル・教育施設等が立地し、多様な土地利用となっているゾーン



■ ゾーン範囲周辺の施設



西Aゾーン

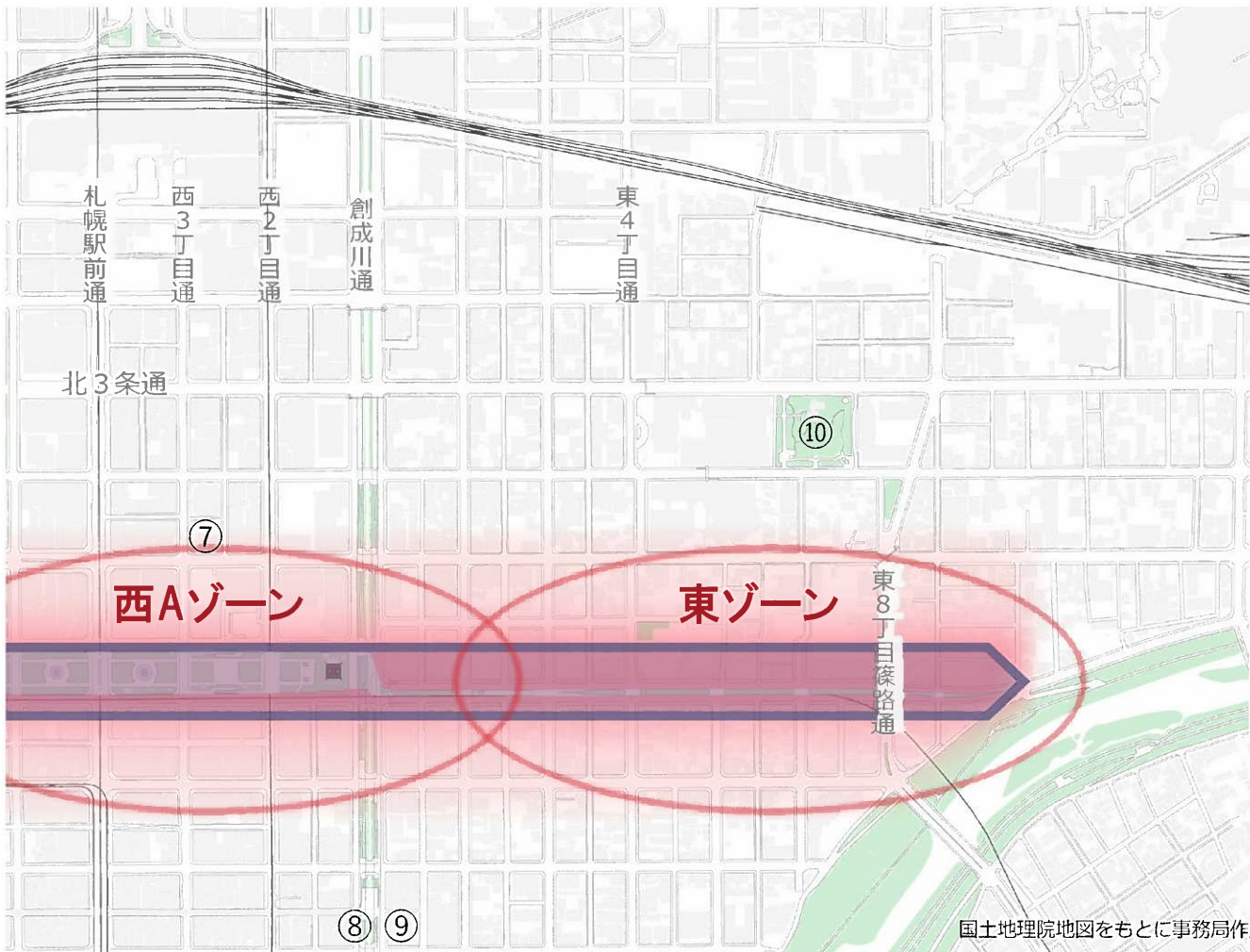
(概ねの位置:にぎわいの軸・つながりの軸と
大通・創世交流拠点を含むエリア)

- 第2次都心まちづくり計画で「大通・創世交流拠点」として位置付けているほか、「都心強化先導エリア」「都心商業エリア」の一部を含んでおり、都心の中でもビジネス・行政・商業といった都市機能の中心的役割を担っているゾーン

東ゾーン

(概ねの位置:大通・創世交流拠点より東側)

- 共同住宅の建設が進んでいる一方で、公園や公共的空間が不足しており、また、青空駐車場といった低未利用地が多いゾーン



⑥北海道庁旧本庁舎



⑦札幌市時計台



⑧創成川公園



⑨二条市場



⑩旧山武四郎邸

4-2. 全ゾーン共通の取組の方向

①【象徴性】

- b: 大通を挟む両街区や、その周辺の歴史的資源を繋ぐ南北の回遊性を高める。
- d: 沿道建物・道路・大通を一体的な空間として捉えられるような機能配置や運用ルールなどの仕組みの整備を行う

③【ライフスタイル】

- b: 沿道建物低層部へ賑わいや回遊性向上に資する用途を導入し、まちに開かれた空間とする

④【まちづくり】

- a: 官民連携による公共空間を活用した実証実験を展開しながら、施策の検討を進める
- b: 周辺の関係者と連携し、エリアの特徴を活かすマネジメント体制を構築する
- c: 市民・企業・行政が連携した活発なまちづくり活動を促進する

⑤【ユニバーサル】

- b: 建物や都市基盤施設、パブリックスペースなどのバリアフリー化を進める

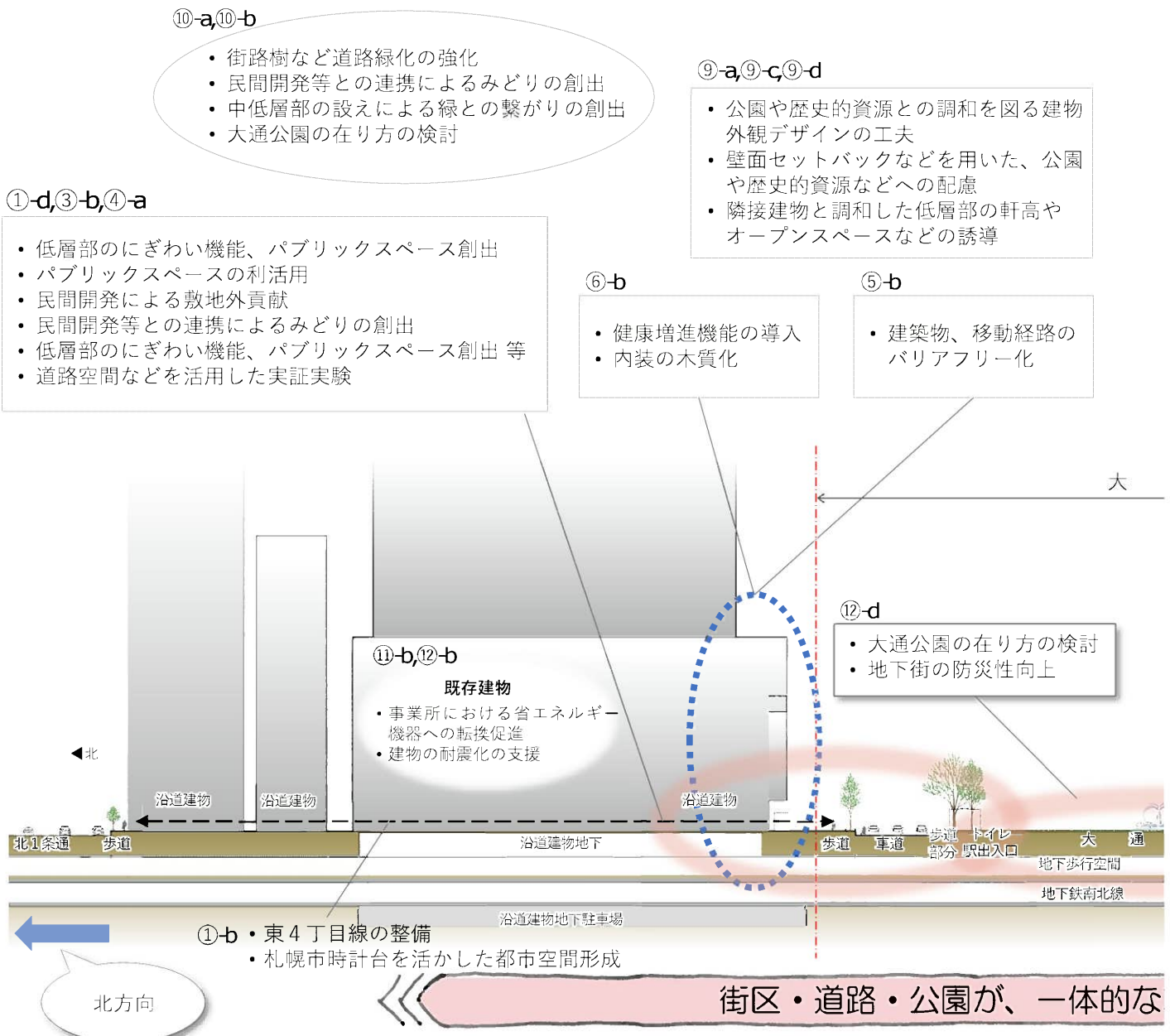
⑥【健康的な暮らし】

- a: どの季節にも歩きやすい環境を創出する
- b: 建物の更新に合わせて、心身の健康増進に資する機能を導入する

⑦【居心地がよく歩きたくなるまち】

- b: 歩行者動線を障害しない位置に駐車場出入口の設置を誘導する
- c: 憩いや賑わいの場としての道路空間の柔軟な活用を検討する
- d: 周辺街区と連携して駐輪対策の取組を行う

主な取組例



⑧ 【快適な交通環境】

b : エリア内を快適に移動できる環境を整備する

⑨ 【都市の景観】

a : 大通公園や沿道の歴史的資源などとの調和を考慮し、一体的な景観形成を図る

c : 大通公園・大通沿道の環境やそこでの活動に配慮した配棟計画を行う

d : 街並みと調和した建物表情線を創出する

⑩ 【みどり】

a : 周辺のままだったみどりや大通公園とのネットワーク強化を図り、みどりの質と量を向上させる

b : 大通と沿道のみどりとの一体的な繋がりを創出する

⑪ 【脱炭素化】

a : 脱炭素化に対応した環境配慮型の建物の建設を誘導する

b : 既存建物の環境性能向上を図る

⑫ 【防災】

a : 防災性能の高い建物の建設や、災害時に活用できるオープンスペースの確保などを誘導する

b : 既存建物の耐震化を図る

c : 近傍の建物と連携したBCP性能の向上を図る

d : 大通公園や地下街の防災機能を強化する

⑧-b

- ・ 大通公園の在り方の検討
- ・ 快適な自転車通行環境の整備

⑦-d

- ・ 大通周辺の放置禁止区域設定、駐輪場の有料化などの取組の徹底

④-b,④-c

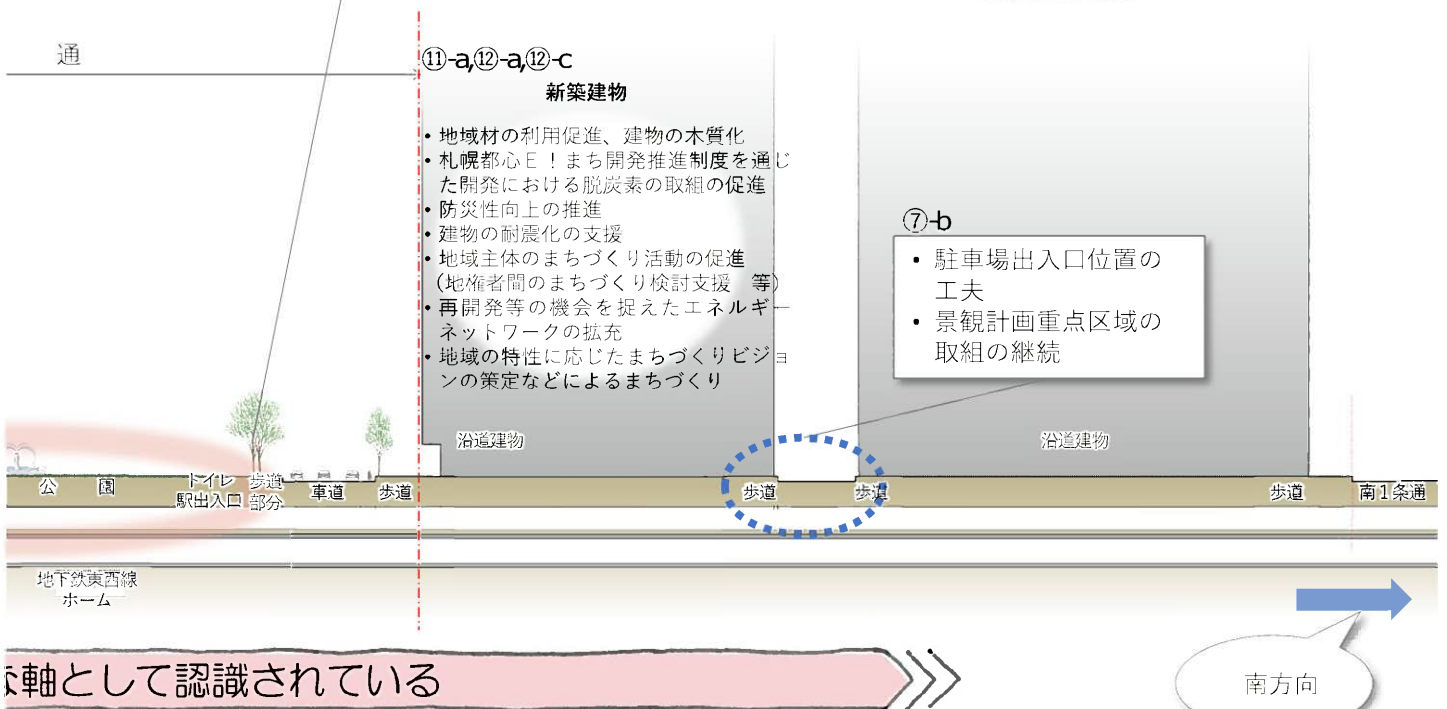
- ・ 地域の特性に応じたエリアマネジメントの支援
- ・ 地域主体のまちづくり活動の促進（地権者間のまちづくり検討支援、市民・企業と連携した緑化促進等）

⑥-a

- ・ 移動経路のバリアフリー化
- ・ 季節を問わず通れる空間の整備

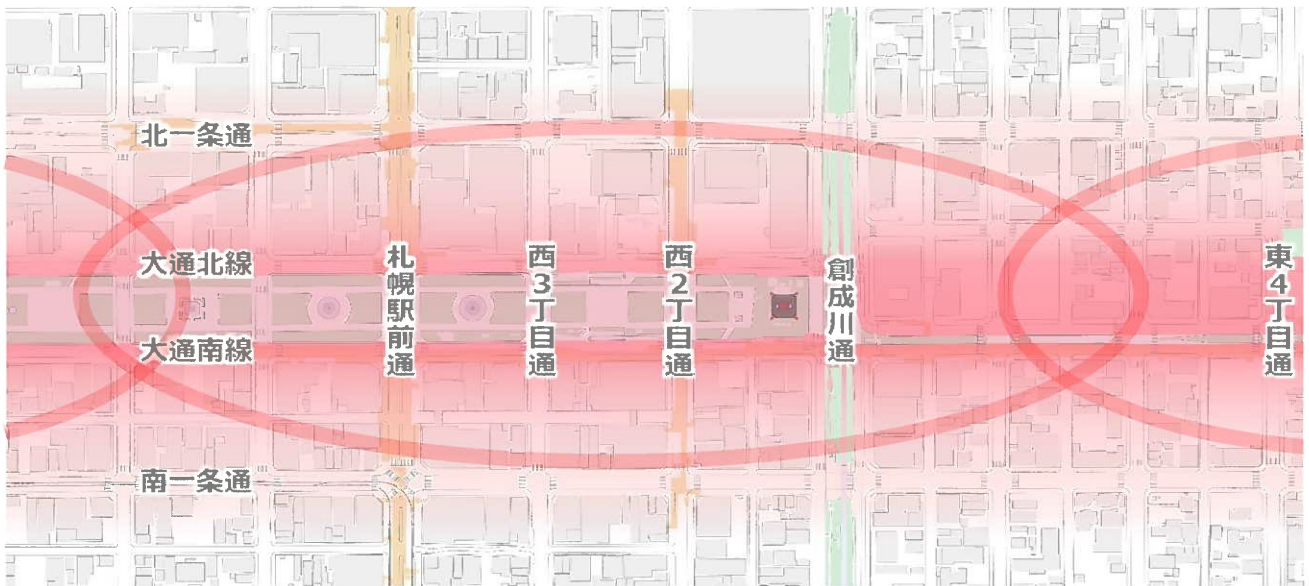
⑦-c

- ・ 道路空間などを活用した実証実験

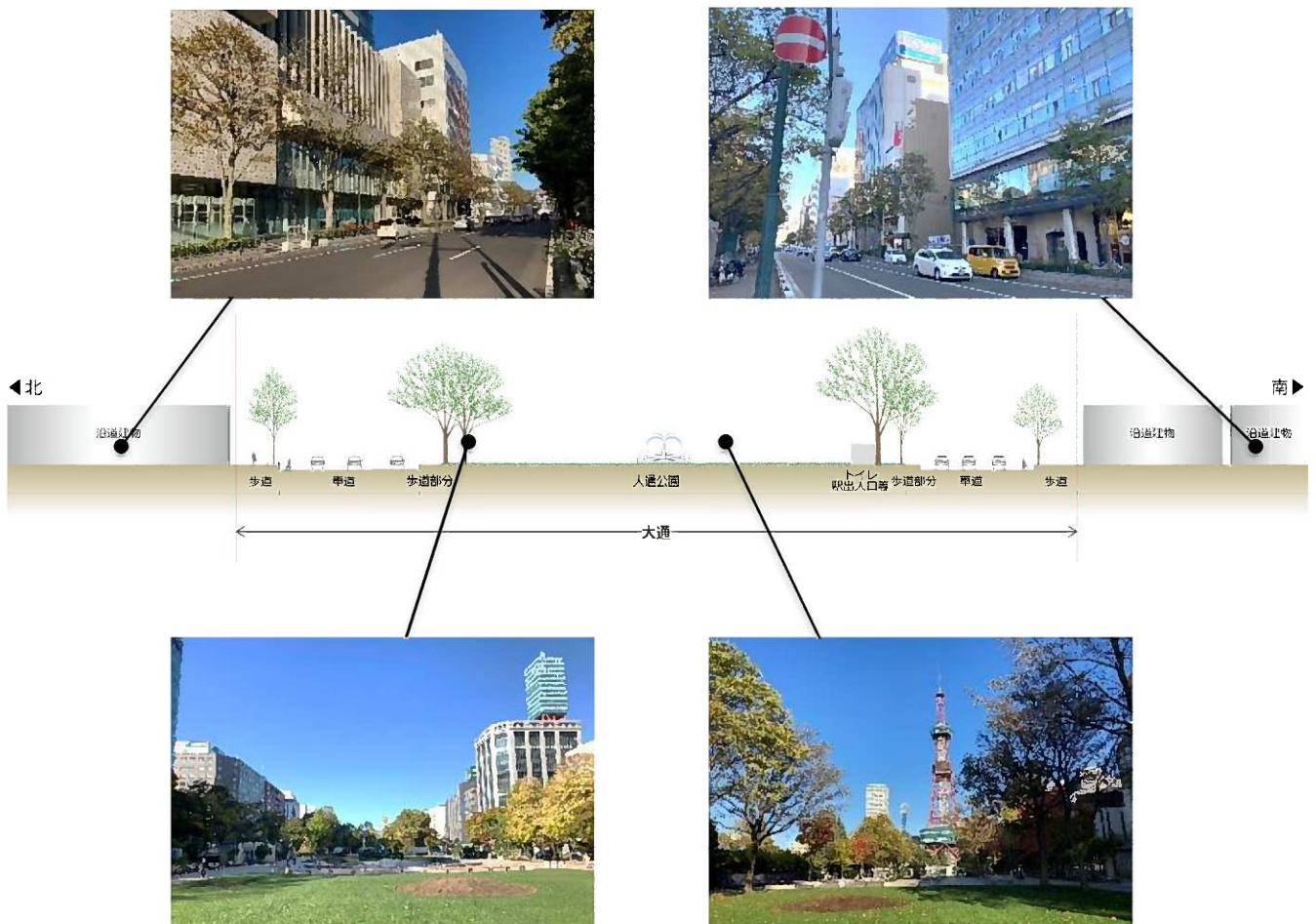


4-3. ゾーン別の現状と課題、取組の方向 【西Aゾーン】

■ ゾーン周辺図



■ 現況道路断面イメージ・写真 ※道路断面は南北方向の概略図



■ ゾーン特性

【象徴性】

- 札幌文化芸術劇場hitaruや札幌大通地下ギャラリー500m美術館など芸術・文化の拠点が立地している。
- テレビ塔、札幌市時計台など札幌を象徴する景観資源が立地しているほか、噴水が大通公園の各街区を特徴づけている。
- 創成川通アンダーパス連続化事業に伴い創成川公園や創成川の東西市街地を繋ぐ道路が整備され、創成川以西から以東への人の流れを創出する基盤が形成されている。

【創造性】

- 地区計画や地域が主体となって策定したまちづくりガイドラインにより土地利用等の方針が示され、今後の機能更新が期待される街区がある。

【ユニバーサル】

- 地下歩行空間、地下街等が展開し、地下の回遊性を有する空間となっている。

【快適な交通環境】

- 北海道内各所と繋がるバスターミナル機能や市内各地への交通アクセスが充実している。
- 地下鉄駅や路面電車・バスの停留場が近接しており、交通結節点になっている。

【脱炭素化】

- 面的なエネルギーネットワークの整備が進められている。

【防災】

- 一時避難場所としての大通公園や一時滞在施設としての地下歩行空間等がある。



大通公園西3丁目・テレビ塔



ポールタウン オーロラタウン チ・カ・ホ

■ 主な課題

【象徴性】

- 大規模な都市機能更新といった投資を呼び込むための国際競争力強化に向けた取組の方向が不足している。
- 札幌を象徴する歴史的資源としての時計台が立地しているが、大通公園とのつながりが弱い。
- 沿道から南北へ展開する回遊性が不足している。

【創造性】

- 築年数の経過した大規模ビルが多く、今後の機能の見直しを行っていく必要がある。
- 西側から繋がっている公園は創成川までで途切れており、創世川以東への連続性が途切れている。

【ライフスタイル】

- 沿道と公園の一体感に欠け、低層部での沿道と公園の賑わいの連続が不足している。

【都市の景観】

- 大通公園を中心とした区域は、景観計画重点区域、風致地区及び都市公園区域として、沿道建築物の位置、規模及び外壁の色彩、屋外広告物並びに敷地内の緑化等の基準があるが、より良好な景観形成に向けた検討の余地がある。

【快適な交通環境】

- 路上駐車が多く、自転車通行空間をふさぐなどの支障が生じている。

【脱炭素化】

- エネルギーネットワークを、沿道建物へさらに拡充していく必要がある。



大通公園西3丁目



オフィスビルの連続



大型商業施設の集積

■強化の考え方

育んできた価値と新しい価値が融合した
世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点をはぐくむ

■当エリアのまちづくりを強化する取組の方向

①【象徴性】

- a：大通公園及び周辺の歴史的資源の歴史的価値を保存・活用する
- c：創成川以西のにぎわいを創成川以東まで波及させる連続性ある空間を形成する

- g：大通沿道の公有地や低・未利用地を創造的な活動を生み出す場として活用する
- h：大通公園の魅力をさらに高める

②【創造性】

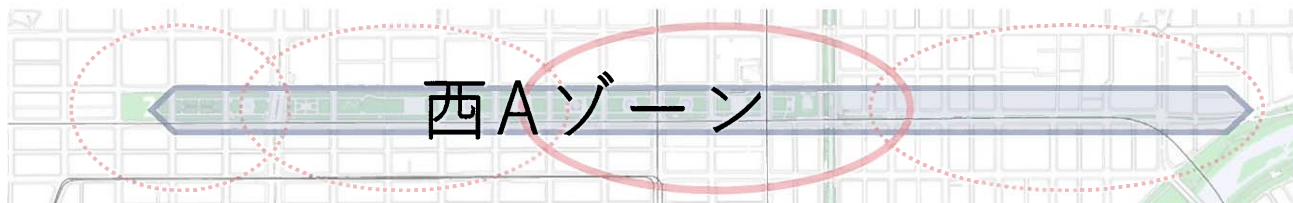
- a：既存の都市基盤施設や公開空地を創造的な活動や交流を生み出すパブリックスペースとして活用する
- b：地域の特性を生かした文化芸術活動を促進する
- e：大通公園に面した街区らしい働き方ができ、多様な人材を引き寄せる創造的なオフィス環境を整備する
- f：建物の更新に合わせて機能の集積や複合化を図り、世界に誇れる魅力ある都市の拠点を形成する

③【ライフスタイル】

- a：四季を通じてだれもが利用でき大通公園との一体的な利用を意識したパブリックスペースを屋内外で創出し、日常利用の促進を図る
- c：建物中層部においては公園に対して内部の活動が滲み出す設えと使い方の誘導を図る
- d：大通公園がもたらす日常の憩いとイベント開催などによる賑わいの両立を図る
- e：イベント開催時に大通公園と周辺の広場を一体的に活用していく

■主な取組例

次回（第5回）検討会にて提示予定

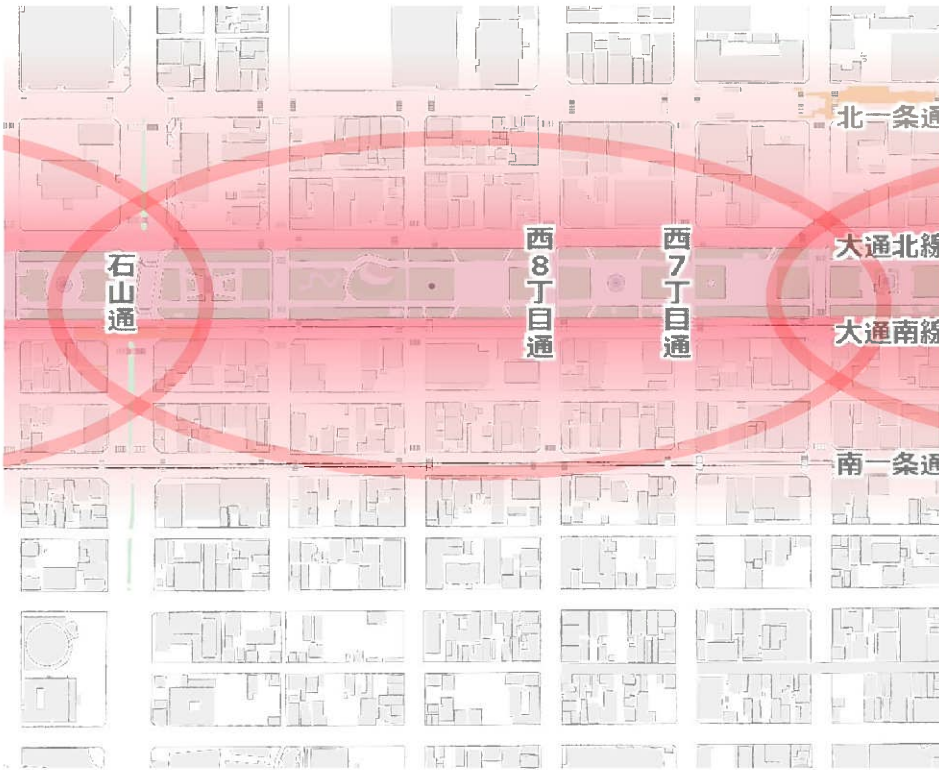


- ⑤【ユニバーサル】
 - a：地上と地下の接続箇所増築や案内表示の充実化等により利便性の向上を図る。
- ⑥【健康的な暮らし】
 - c：大通公園の環境を建物内部に引き込む設えとする
- ⑦【居心地がよく歩きたくなるまち】
 - a：歩行者動線とは別に集約的荷さばきのためのスペースや動線を確保する
- ⑧【快適な交通環境】
 - a：多様な交通手段を選択できる交通結節機能を強化する
 - c：路上駐車対策等を行い、自転車が安全に通行できる空間を確保する
- ⑨【都市の景観】
 - b：屋外広告物の掲出に当たっては大通沿道の景観に配慮する
- ⑩【脱炭素化】
 - c：面的エネルギーネットワークを構築する

次回（第5回）検討会にて提示予定

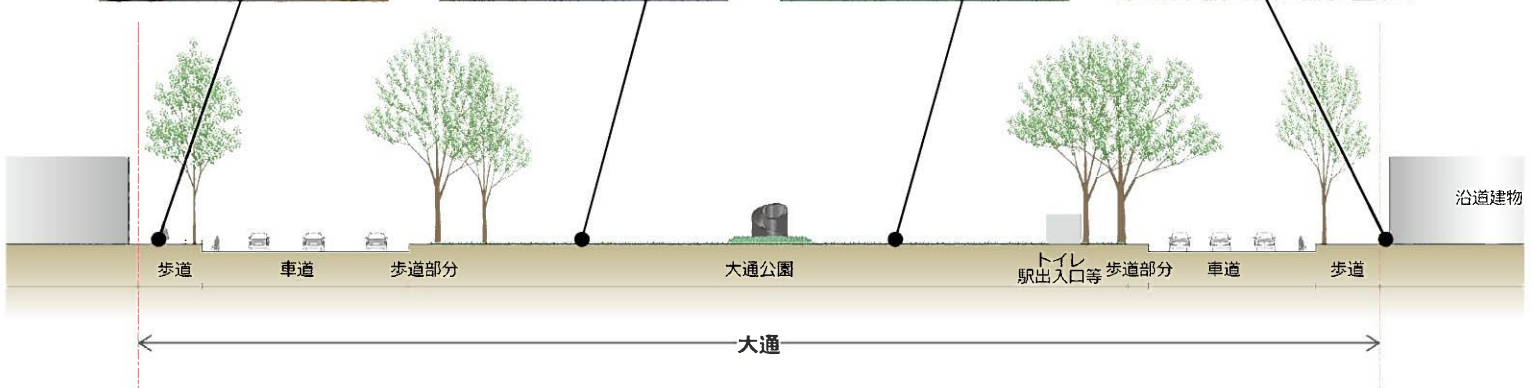
【西Bゾーン】

■ ゾーン周辺図



■ 現況道路断面イメージ・写真

※道路断面は南北方向の概略図



■ ゾーン特性

【象徴性】

- ・北側には道庁赤レンガ庁舎、北大植物園といった象徴的な都市機能が位置している

【創造性、ライフスタイル】

- ・共同住宅の建設や保育施設の整備が進み、教育施設も立地しており、都心居住の受け皿となっている
- ・「遊び・イベントゾーン」では、子供連れや学生といった若い世代が集まり交流するスペースが生まれている
- ・大通公園西8丁目は、雪まつりやYOSAKOIソーラン祭りなどの大規模イベント時のメイン会場として活用され、イベントスペースとして機能しており、ホテルも立地している
- ・野外ステージは音楽イベントなどで活用され、文化・芸術機能を発揮している。

【快適な交通環境】

- ・市電の電停が複数面しており、大通から南側のエリアとの接続の起点となっている

【防災】

- ・大通公園が一時避難場所として指定されている



沿道に並ぶ集合住宅・専門学校



大通西9丁目沿道
専門学校



ブラックスライドマントラ



水遊びスペース



札幌ビューホテル

出典：札幌ビューホテルHP

■ 主な課題

【象徴性】

- ・沿道低層部の機能が、公園内の機能と連携しておらず、公園とまちの一体感が感じられない。

【ライフスタイル】

- ・周辺の世帯数増加に伴い子供の人口も増加傾向にあるが、大通公園が、憩いと遊びの場として活用できる期間が十分ではない。
- ・イベント時には、イベントの非利用者に対する動線の対応が課題となっている。
- ・イベント時には、イベント建屋背面により、大通公園と沿道のつながりが薄れる。

【都市の景観】

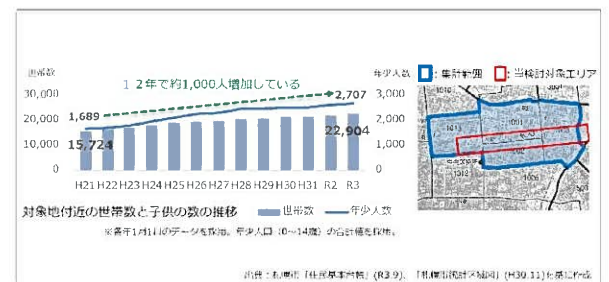
- ・大通公園を中心とした区域は、景観計画重点区域、風致地区及び都市公園区域として、沿道建築物の位置、規模及び外壁の色彩、屋外広告物並びに敷地内の緑化等の基準があるが、より良好な景観形成に向けた検討の余地がある。

【快適な交通環境】

- ・路上駐車が多く、自転車通行空間をふさぐなどの支障が生じている。

【防災】

- ・沿道ビルは、築年数の経過などを踏まえても個別の建替え・利用継続が今後も見込まれ、防災への対応にはビル間での連携した取組が必要。
- ・沿道ビルは、築年数の経過などを踏まえても個別の建替え・利用継続が今後も見込まれる。



世帯数と子供の数の増加



沿道に並ぶ集合住宅・専門学校

■強化の考え方

居住とビジネスが共存し、まちに開かれた沿道空間と大通公園に多世代が集う
都市の新しいライフスタイル・ワークスタイルをはぐくむ

■当エリアのまちづくりを強化する取組の方向

②【創造性】

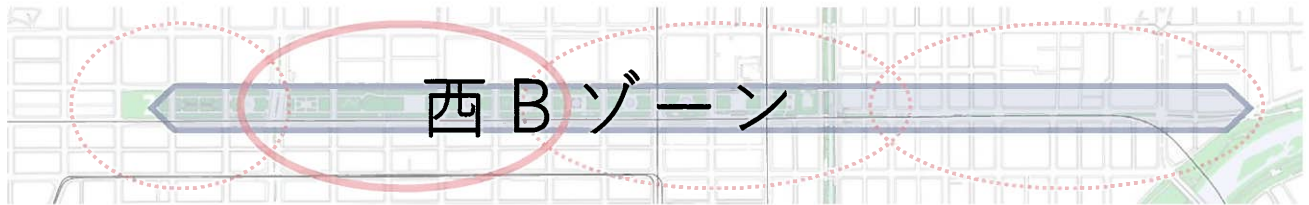
- d：多様な人材の集積・交流を促すための、変化に富んだ住・滞在環境を整える
- e：大通公園に面した街区らしい働き方ができ、多様な人材を引き寄せる創造的なオフィス環境を整備する
- h：大通公園の魅力をもっと高める

③【ライフスタイル】

- a：四季を通じてだれもが利用でき大通公園との一体的な利用を意識したパブリックスペースを屋内外で創出し、日常利用の促進を図る
- c：建物中層部においては公園に対して内部の活動が滲み出す設えと使い方の誘導を図る
- d：大通公園がもたらす日常の憩いとイベント開催などによる賑わいの両立を図る
- e：イベント開催時に大通公園と周辺の広場を一体的に活用していく

■主な取組例

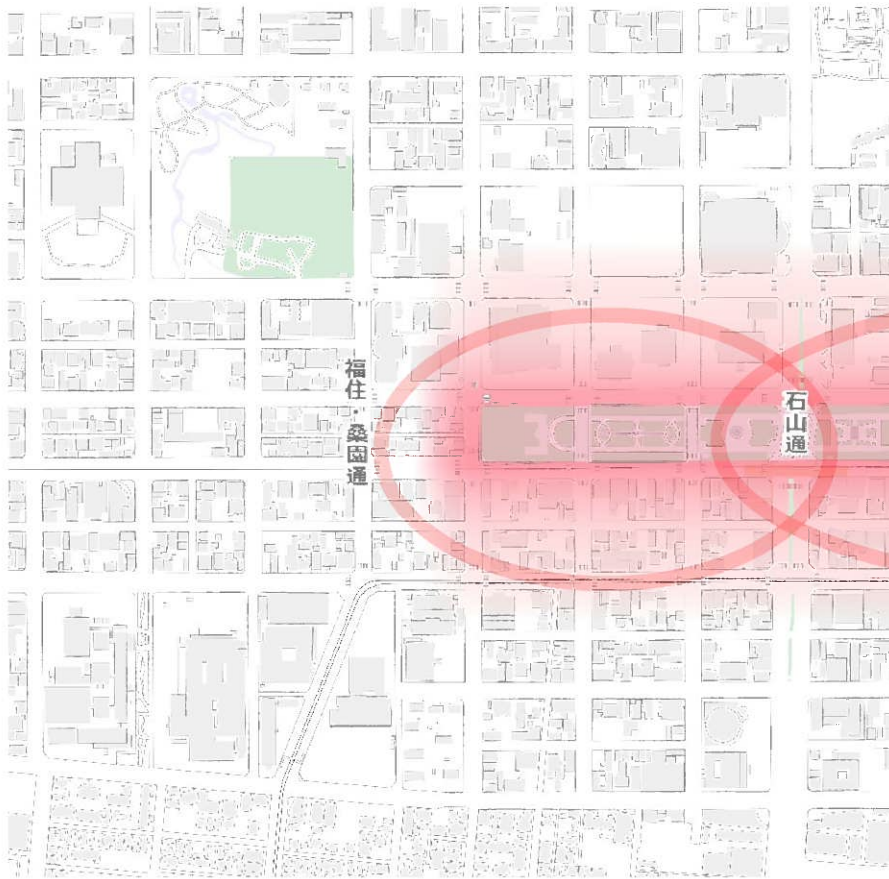
次回（第5回）検討会にて提示予定



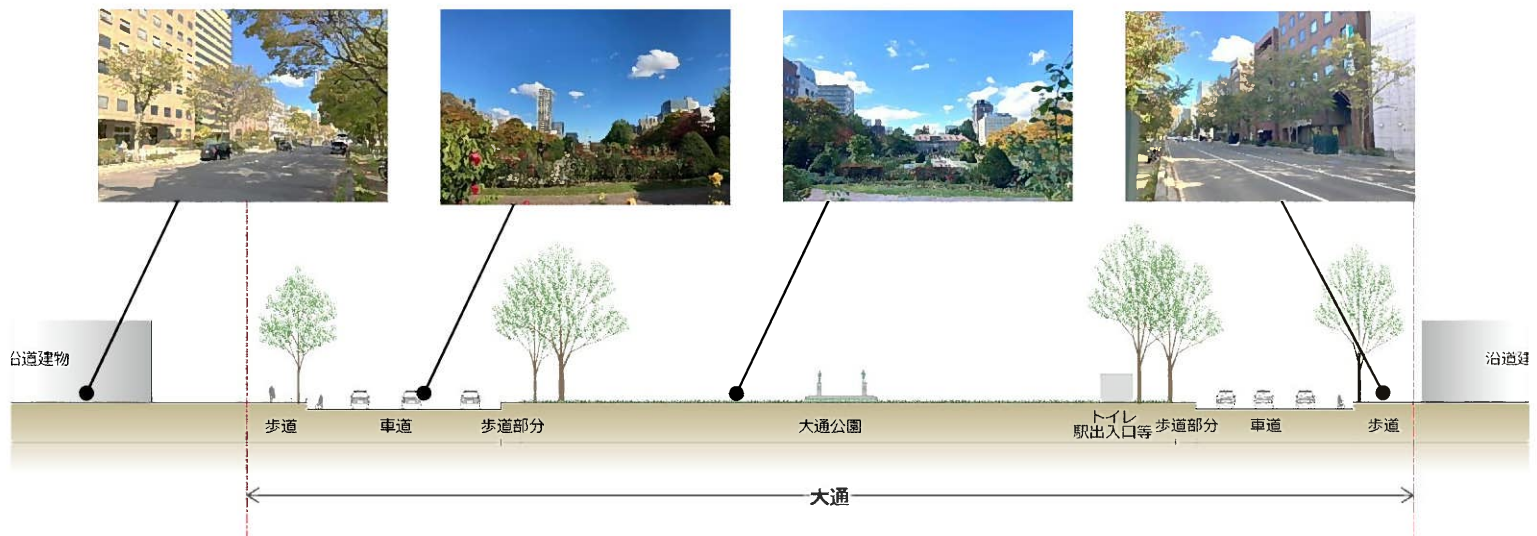
- ⑦【居心地がよく歩きたくなるまち】
 - a：歩行者動線とは別に、集約的荷さばきのためのスペースや動線を確保する
- ⑧【快適な交通環境】
 - c：路上駐車対策等を行い、自転車が安全に通行できる空間を確保する
- ⑨【都市の景観】
 - b：屋外広告物の掲出にあたっては大通沿道の景観に配慮する

次回（第5回）検討会にて提示予定

【西Cゾーン】



■ 現況道路断面イメージ・写真 ※道路断面は南北方向の概略図



■ ゾーン特性

【象徴性】

- 資料館等の歴史的資源の更なる有効活用が期待できる
- 札幌市資料館の前にはサンクガーデンが広がる美しい空間があり、都心西側へのさらなる人の呼び込みが期待される

【創造性】

- 多様な用途の建物が集積し、敷地規模も大小様々であり、多様な都市機能を受け止める土台が構築されている
- 大通公園の南北においてもそれぞれ違う特色をもつ都市機能が集積している
- 中央区役所などの公共施設、文化芸術施設、札幌市資料館などの歴史的建造物・景観資源のほか、集客交流施設が複数立地している

【みどり】

- 知事公館や北海道立近代美術館などの緑のかたまりに近接している

【快適な交通環境】

- 地下鉄駅、路面電車・バスの停留所が近接しており、交通利便性が高い



札幌高等裁判所
出典：裁判所HP



教育文化会館
出典：札幌市民交流プラザHP



市電 中央区役所前駅



札幌市資料館と前面に広がる
サンクガーデン

出典：大通公園HP

■ 主な課題

【創造性】

- 大規模な公有地が公園に面して立地しているが、駐車場利用等により公園とまちの一体感が薄い。

【ライフスタイル】

- 沿道建物の低層部は、賑わい醸成に資する用途となっていない。

【まちづくり】

- 地域主体のまちづくりなど、一体感をもったまちづくりの動向が無い。

【脱炭素化】

- 建物規模が大きく、業務・宿泊など多様な機能集積が見られるが、エネルギー利用の効率化に係る取組の方向がない。

【防災】

- 北海道／札幌の重要な公共拠点施設が立地しており高い防災性が求められるが、エリアとしてのBCP対策はない。



出典：大通公園HP



出典：札幌市HP



札幌高等裁判所
出典：裁判所HP



教育文化会館
出典：札幌市民交流プラザHP

■強化の考え方

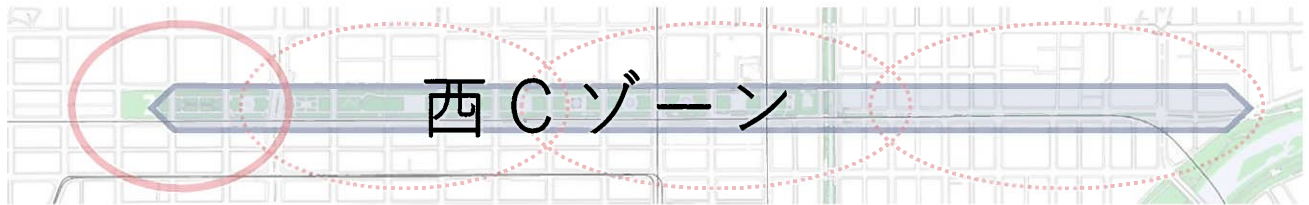
都心西側の回遊拠点を形成し
美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ

■当エリアのまちづくりを強化する取組の方向

- ①【**象徴性**】
 - a：大通公園及び周辺の歴史的資源の歴史的価値を保存・活用する
- ②【**創造性**】
 - b：地域の特性を生かした文化芸術活動を促進する
 - c：周辺の集客交流施設同士の機能的な連携を誘導する
 - g：大通沿道の公有地や低・未利用地を創造的な活動を生み出す場として活用する
 - h：大通公園の魅力をさらに高める
- ③【**ライフスタイル**】
 - a：四季を通じてだれもが利用でき大通公園との一体的な利用を意識したパブリックスペースを屋内外で創出し、日常利用の促進を図る
- ⑥【**健康的な暮らし**】
 - c：大通公園の環境を建物内部に引き込む設えとする

■主な取組例

次回（第5回）検討会にて提示予定

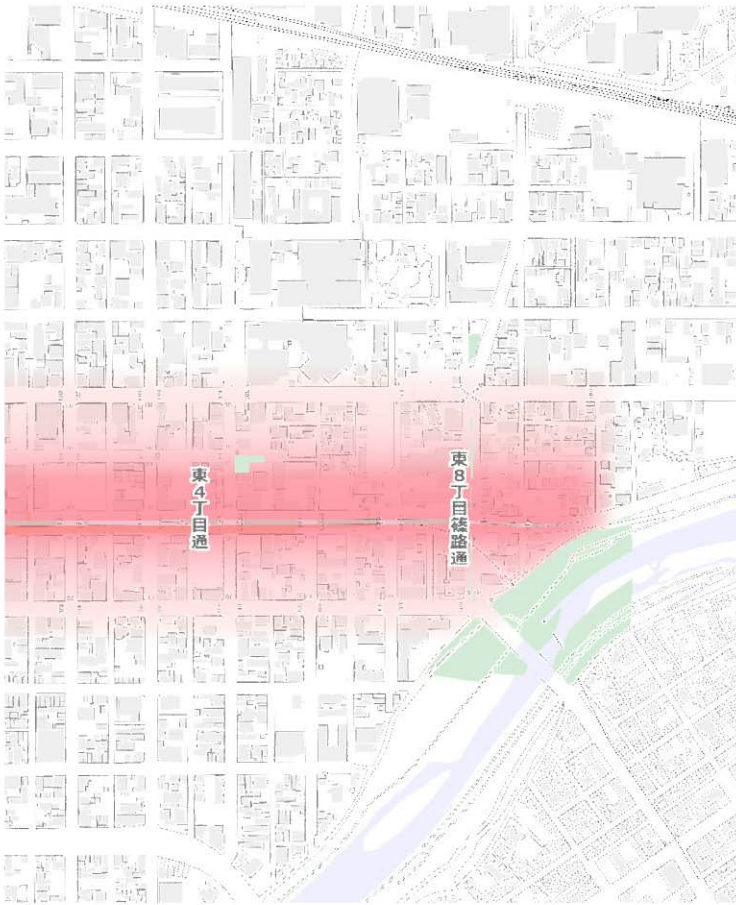


- ⑦【居心地がよく歩きたくなるまち】
 - a：歩行者動線とは別に、集約的荷さばきのためのスペースや動線を確保する
- ⑧【快適な交通環境】
 - a：多様な交通手段を選択できる交通結節機能を強化する
 - c：路上駐車対策等を行い、自転車が安全に通行できる空間を確保する
- ⑨【都市の景観】
 - b：屋外広告物の掲出に当たっては大通沿道の景観に配慮する

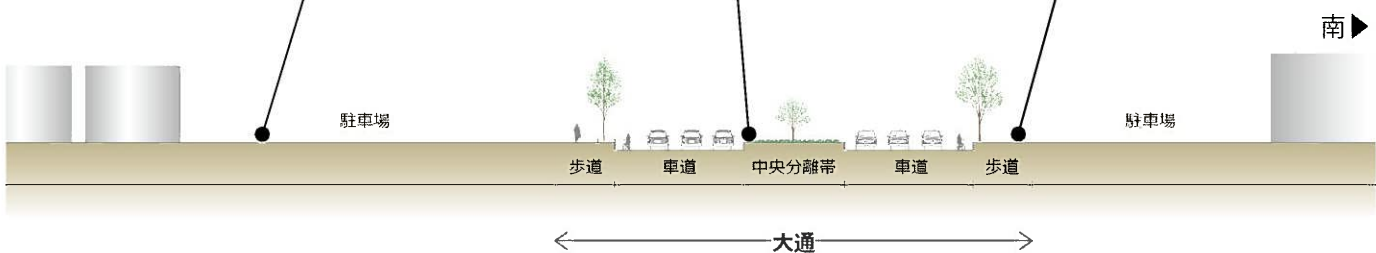
次回（第5回）検討会にて提示予定

【東ゾーン】

■ ゾーン周辺図



■ 現況道路断面イメージ・写真 ※道路断面は南北方向の概略図



B

■ ゾーン特性

【象徴性】

- 地下鉄コンコースが大通東5丁目まで伸びている
- 東4丁目通の整備により、地域内の南北の歩行環境の向上が図られる予定である
- サッポロファクトリーや二条市場などの地域資源がある

【創造性】

- 低未利用地が多く今後の土地利用転換が期待される
- 創成川西側と比較して地価水準が低く、賃料負担力にとられない機能導入が可能である
- 共同住宅の建設や保育施設の整備が進み、都心居住の受け皿となっている

【まちづくり】

- 民間団体や行政により、イベント開催や実証実験など、公共空間を活用し、まちの魅力・活力を高めていく試みがなされている
- 豊平川において、河川区域の利活用を目指した取組が進められている

【脱炭素化】

- 都心エネルギープランで、小規模な建物を含めて都心にふさわしい先進的な取組により低炭素化を推進するエリアとして位置づけられている
- 都心エネルギープランで、熱供給ネットワーク促進エリアとして、将来的に面的なエネルギーネットワークを構築するエリアとして位置づけられている

【防災】

- 中央小学校が基幹指定避難場所となっている



中小規模の住宅・事務所
(東7丁目)



地下通路 (500m美術館)
出典：札幌市HP



二条市場

■ 主な課題

【創造性】

- 周辺の世帯数増加に伴い子供の人口も増加傾向にあるが、遊びに利用できるスペースが十分ではない。

【居心地がよく歩きたくなるまち】

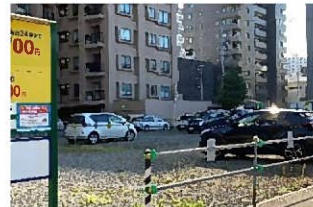
- 駐車場の出入口が沿道に多数存在している。

【都市の景観】

- 近接する歴史的資源を活かすなど、景観的な視点からも方向性を位置づけることが望まれる。

【防災】

- 安全確保計画に定められている一時滞在施設などがバスセンター駅前の地下鉄コンコースのみである。



大通東5丁目青空駐車場



あそぶべ公園

出典：札幌市公園検索システム



大通バスセンター

出典：丸紅リアルエステートマネジメントHP

■強化の考え方

創成東地区の資源と創成川以西の活力を活かした
創造性豊かな職・住環境と人にやさしく歩きたくなるまちなかをはぐくむ

■当エリアのまちづくりを強化する取組の方向

①【象徴性】

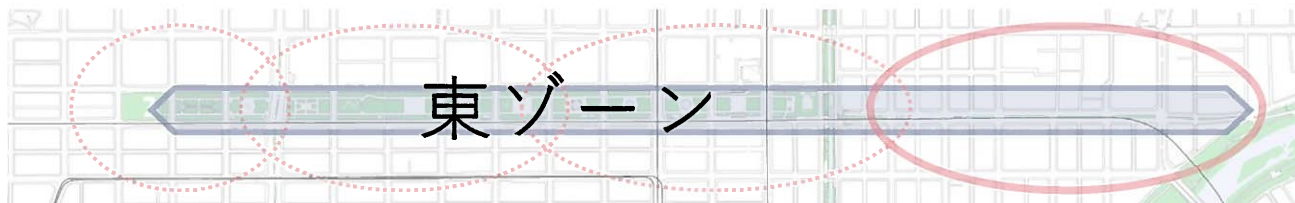
- a：大通公園及び周辺の歴史的資源の歴史的価値を保存・活用する
- c：創成川以西の賑わいを創成川以東まで波及させる連続性ある空間を形成する

②【創造性】

- a：既存の都市基盤施設や公開空地を創造的な活動や交流を生み出すパブリックスペースとして活用する
- d：多様な人材の集積・交流を促すための、変化に富んだ住・滞在環境を整える
- f：建物の更新に合わせて機能の集積や複合化を図り、世界に誇れる魅力ある都市の拠点を形成する
- g：大通沿道の公有地や低・未利用地を創造的な活動を生み出す場として活用する

■主な取組例

次回（第5回）検討会にて提示予定



- ⑤ 【ユニバーサル】
 - a：地上と地下の接続箇所増設や案内表示の充実化等により利便性の向上を図る
- ⑧ 【快適な交通環境】
 - a：多様な交通手段を選択できる交通結節機能を強化する
- ⑪ 【脱炭素化】
 - c：面的エネルギーネットワークを構築する

次回（第5回）検討会にて提示予定

参考. 将来像、取組の方向一覧

視点	将来像	取組の方向	解決が期待される課題等	対象ゾーン				主な取組	
				西C	西B	西A	東		
市民の愛着の醸成と魅力の発信	① 【象徴性】 大通がもつ札幌都心の象徴性が継承されている	a 大通公園及び周辺の歴史的資源の歴史的価値を保存・活用する	・札幌を象徴する歴史的資源として時計台などが立地しているが、大通公園側とのつながりが弱い ・資料館等の歴史的資源の更なる有効活用	●		●	●	・札幌時計台や札幌市資料館の保存と活用	
		b 大通を挟む両街区や、その周辺の歴史的資源を繋ぐ南北の回遊性を高める。	沿道から南北へ展開する回遊性が不足している	●	●	●	●	・東4丁目線の整備 ・札幌市時計台を活かした都市空間形成	
		c 創成川以西のにぎわいを創成川以東まで波及させる連続性ある空間を形成する	創成川を挟んだ東西の回遊性が不足している				●	●	・大通・創世交流拠点のまちづくりの推進
		d 沿道建物・道路・大通を一体的な空間として捉えられるような機能配置や運用ルールなどの仕組みの整備を行う	・軸上で機能(街区、道路、大通公園)が明確に分かれ、それぞれの連携が無い ・沿道低層部の機能が、公園内の機能と連携しておらず、公園とまちの一体感が感じられない	●	●	●	●	●	・低層部のにぎわい機能、パブリックスペース創出 ・パブリックスペースの利活用 ・民間開発による敷地外貢献 ・民間開発等との連携によるみどりの創出
	② 【創造性】 大通ならではの文化・魅力・活力が育ち世界から投資や人材を呼び込んでいる	a 既存の都市基盤施設や公開空地を創造的な活動や交流を生み出すパブリックスペースとして活用する	・バスセンター前駅など、地域資源が立地するものの、これらを活かす取組みは少ない ・公園などの公共的空間が不足している			●	●		・既存の都市基盤施設やパブリックスペースの活用検討 ・大通・創世交流拠点のまちづくりの推進
		b 地域の特性を生かした文化芸術活動を促進する	点在するギャラリーや美術館などの文化芸術施設を活かしたまちづくり	●		●			・札幌市民交流プラザなどの文化芸術施設を活かしたまちづくり
		c 周辺の集客交流施設同士の機能的な連携を誘導する	周辺の文化芸術施設や集客交流施設などとの繋がりが無い	●					・地域の特性に応じたまちづくりビジョンの策定などによるまちづくり
		d 多様な人材の集積・交流を促すための、変化に富んだ住・滞在環境を整える	・多様な交流を通じたまちの活性化の為、多様化するライフスタイルやニーズに対応した住・滞在環境が必要			●		●	・ゾーン特性に応じた施設整備の誘導
		e 大通公園に面した街区らしい働き方ができ、多様な人材を引き寄せる創造的なオフィス環境を整備する	・多様なビジネス交流を通じたまちの活性化の為、創造的な活動を促進する場の整備が必要 ・大通公園に面したオフィスという利点を生かし切れていない			●	●		・快適性や健康を意識したオフィス環境整備
		f 建物の更新に合わせて機能の集積や複合化を図り、世界に誇れる魅力ある都市の拠点を形成する	・大通・創世交流拠点のまちづくりの促進 ・大規模な都市機能更新といった投資を呼び込むための国際競争力強化に向けた取組の方向が不足している ・築年数の経過した大規模ビルが多く、今後の機能の見直しを行っていく必要がある				●	●	・新築建物の機能の複合化
		g 大通沿道の公有地や低・未利用地を創造的な活動を生み出す場として活用する	・大規模な公有地が公園に面して立地しているが、駐車場利用等により大通公園とまちの一体感が薄い ・東ゾーンには青空駐車場が多い	●		●	●		・市有地の利活用 ・低未利用地を活用した実証実験
		h 大通公園の魅力さをさらに高める	・西側から繋がっている公園は創成川まで途切れており、創成川以東への連続性が途切れている ・沿道と公園の一体感に欠け、低層部での沿道と公園の賑わいの連続が不足している ・大通公園のイベント利用によるにぎわいと、日常利用のための憩いの両立が必要	●	●	●			・大通公園の在り方の検討 ・大通・創世交流拠点のまちづくりの推進
	③ 【ライフスタイル】 大通らしい魅力あるライフスタイルが国内外に認識されている	a 四季を通じてだれもが利用でき大通公園との一体的な利用を意識したパブリックスペースを屋内外で創出し、日常利用の促進を図る	・大通公園のイベント利用によるにぎわいと、日常利用のための憩いの両立が必要 ・誰もが訪れやすく、四季を通じて居心地の良い場所が必要	●	●	●			・大通・創世交流拠点のまちづくりの推進 ・パブリックスペースの利活用 ・大通公園の在り方の検討
		b 沿道建物低層部へ賑わいや回遊性向上に資する用途を導入し、まちに開かれた空間とする	・沿道建物低層部へ賑わい用途が少なく、まちを楽しむ設けになっていない ・沿道と公園の一体感に欠け、低層部での沿道と公園の賑わいの連続が不足している ・大通南北を繋ぐ回遊性の向上が必要	●	●	●	●		・低層部のにぎわい機能、パブリックスペース創出 等
		c 建物中層部においては公園に対して内部の活動が溢み出す設えと使い方の誘導を図る	・多様なビジネス交流を通じたまちの活性化の為、創造的な活動を促進する場の整備が必要 ・中高層部も建物の中の活動が見えるような設えの建物が少ないため、大通との一体感を感じにくい			●	●		・建物中層部の設えの工夫
		d 大通公園がもたらす日常の憩いとイベント開催などによる賑わいの両立を図る	・大通公園のイベント利用によるにぎわいと、日常利用のための憩いの両立が必要			●	●		・大通公園の在り方の検討
		e イベント開催時に大通公園と周辺の広場を一体的に活用していく	・イベント時の店舗等の背面が沿道との一体感を阻害している			●	●		・大通公園の在り方の検討 ・パブリックスペースの利活用 ・道路空間などを活用した実証実験
	④ 【まちづくり】 時代の流れに柔軟に対応した官民共同のまちづくりが進められている	a 官民連携による公共空間を活用した実証実験を展開しながら、施策の検討を進める	・将来像の実現に向けて実証実験を重ね段階的に取り組む必要がある	●	●	●	●		・道路空間などを活用した実証実験
		b 周辺の関係者と連携し、エリアの特徴を活かすマネジメント体制を構築する	・場の広場などの空間の整備だけでなく、活用を推進する体制が必要	●	●	●	●		・地域の特性に応じたエリアマネジメントの支援
		c 市民・企業・行政が連携した活発なまちづくり活動を促進する	・地域主体のまちづくりなど、一体感をもったまちづくりの推進が必要	●	●	●	●		・地域主体のまちづくり活動の促進(地権者間のまちづくり検討支援、市民・企業と連携した緑化促進 等)

視点	将来像	取組の方向	解決が期待される課題等	対象ゾーン				主な取組
				西C	西B	西A	東	
より快適で豊かな暮らし	⑤ 【ユニバーサル】 大通公園や沿道の公共的空間などが 全ての人々にとって居心地の良い場として 親しまれている	a 地上と地下の接続箇所増築や案内表示の 充実化等により利便性の向上を図る	・地上地下の重層的ネットワークの形成が必要			●	●	・地下接続箇所の新設 ・案内サイン等による利便性の向上
		b 建物や都市基盤施設、パブリックスペース などのバリアフリー化を進める	・既存の施設でのバリアフリー化が必要	●	●	●	●	・建築物、移動経路のバリアフリー化
	⑥ 【健康的な暮らし】 訪れる人の心身の健康を 増進させる 環境が整っている	a どの季節にも歩きやすい環境を創出する	・季節を問わず歩きやすい環境の整備が必要	●	●	●	●	・移動経路のバリアフリー化 ・季節を問わず通れる空間の整備
		b 建物の更新に合わせて、心身の健康増進 に資する機能を導入する	多様化するライフスタイルやニーズに対応した開発 の誘導や都市空間の活用が求められている	●	●	●	●	・健康増進機能の導入 ・内装の木質化
		c 大通公園の環境を建物内部に引き込む設 えとする	・都会の中で自然に享受できる空間を活かす	●		●		・低、中層階へのオープンテラス設置
	⑦ 【居心地がよく 歩きたくなるまち】 大通沿道の一体的な空間を、 安全・快適に楽しく回遊できる	a 歩行者動線とは別に、集約的荷さばきの ためのスペースや動線を確保する	・駐車場出入口が街並みの連続性を分断している ・駐車場の出入口が沿道に多数存在している	●	●	●		・集約荷捌き場の設置
		b 歩行者動線を阻害しない位置に駐車場出 入口の設置を誘導する	・駐車場出入口が街並みの連続性を分断している ・駐車場の出入口が沿道に多数存在している	●	●	●	●	・駐車場出入口位置の工夫 ・景観計画重点区域の取組の継続
		c 憩いや賑わいの場としての道路空間の柔 軟な活用を検討する	・居心地が良く歩きたくなるまちづくりが必要	●	●	●	●	・道路空間などを活用した実証実験
		d 周辺街区と連携して駐輪対策の取組を行 う	特に大通公園の道路際に放置自転車が多く、良好 な景観や歩行者交通を阻害している	●	●	●	●	・大通周辺の放置禁止区域設定、駐輪場の 有料化などの取組の徹底
	⑧ 【快適な交通環境】 東西に長い大通を快適・円滑に 移動することができる	a 多様な交通手段を選択できる交通結節機 能を強化する	・新幹線駅との回遊性が乏しい ・交通結節性の更なる強化が必要	●	●	●	●	・時代に合わせた公共交通システムの推進
		b エリア内を快適に移動できる環境を整備 する	東西に長いエリア内を快適に移動できる環境の整 備が必要	●	●	●	●	・大通公園の在り方の検討 ・快適な自転車通行環境の整備
		c 路上駐車対策等を行い、自転車が安 全に通る空間を確保する	・路上駐車が多く、自転車通行空間をふさぐなどの 支障が生じている	●	●	●		・集約荷捌き場の設置 ・快適な自転車通行環境の整備
⑨ 【都市の景観】 大通の資源を活かした はぐくみの軸ならではの 景観が形成されている	a 大通公園や沿道の歴史的資源などの調 和を考慮し、一体的な景観形成を図る	・大通公園を中心とした区域は、景観計画重点区 域、風致地区及び都市公園として、沿道建築物の 位置、規模及び外壁の色彩、屋外広告物並びに 敷地内の緑化等の基準があるが、より良好な景観 形成に向けた検討の余地がある	●	●	●	●	・公園や歴史的資源との調和を図る建物外 観デザインの工夫	
	b 屋外広告物の掲出にあたっては大通沿道 の景観に配慮する	・大通沿道は、景観保全型広告整備地区に指定さ れていない	●	●	●		・風致地区である大通公園にふさわしい屋外 広告物の規制、誘導	
	c 大通公園・大通沿道の環境やそこの活 動に配慮した配棟計画を行う。	・沿道建物の大通公園に対する影響の考慮が必要	●	●	●	●	・壁面セットバックなどを用いた、公園や歴史 的資源などへの配慮	
	d 街並みと調和した建物表情線を創出する	・大通公園を中心とした区域は、景観計画重点区 域、風致地区及び都市公園として、沿道建築物の 位置、規模及び外壁の色彩、屋外広告物並びに 敷地内の緑化等の基準があるが、より良好な景観 形成に向けた検討の余地がある	●	●	●	●	・隣接建物と調和した低層部の軒高やオー penspaceなどの誘導	
⑩ 【みどり】 大通公園を中心に 連続的にみどりの空間が 形成されている	a 周辺のみどりや大通公園との ネットワーク強化を図り、みどりの質と 量を向上させる	・創成川以東への公共的空間の連続が途切れて いる ・知事公館や北海道近代美術館などの緑のかたま りの繋がり形成 ・みどりのネットワークの形成を図ることにより、都心 全体としての良好な景観形成、人の回遊性や移動 の利便性の向上、生活の質の向上、生物多様性の 保全、防災性の向上などが期待できる	●	●	●	●	・街路樹など道路緑化の強化 ・民間開発等との連携によるみどりの創出	
	b 大通と沿道のみどりとの一體的な繋がり を創出する	・大通公園と沿道のみどりが一体感が無く、道路を 介して分断した印象を与えている ・創成東でまパブリックスペースやみどりが不足して いる	●	●	●	●	・中低層部の設けによる緑との繋がり創出 ・街路樹など道路緑化の強化 ・民間開発等との連携によるみどりの創出 ・大通公園の在り方の検討	
⑪ 【脱炭素化】 2050年のゼロカーボン 都市の実現に向けた 先進的な取組が 進められている	a 脱炭素化に対応した環境配慮型の建物の 建設を誘導する	・札幌市気候変動対策行動計画などに基づくゼロ カーボン都市実現に向けた取組の推進が必要	●	●	●	●	・地域材の利用促進、建物の木質化 ・札幌都心E1まち開発推進制度を通じた開 発における脱炭素の取組の促進	
	b 既存建物の環境性能向上を図る	・札幌市気候変動対策行動計画などに基づくゼロ カーボン都市実現に向けた取組の推進が必要	●	●	●	●	・事業所における省エネルギー機器への転換 促進	
	c 面的エネルギーネットワークを構築する	・札幌市気候変動対策行動計画などに基づくゼロ カーボン都市実現に向けた取組の推進が必要 ・エネルギーネットワークを、沿道建物へさらに拡充 していく必要がある	●	●	●	●	・再開発等の機会を捉えたエネルギーネット ワークの拡充 ・各建物へのBEMS、エネルギーセンターを核 としたAEMSの導入促進	
⑫ 【防災】 大通の防災機能が 強化されている	a 防災性能の高い建物の建設や、災害時に 活用できるオープンスペースの確保など を誘導する	・災害に強いまちづくりが必要	●	●	●	●	・防災性向上の推進 ・建物の耐震化の支援	
	b 既存建物の耐震化を図る	・大規模な地震の発生に備えて建物の耐震化が必要	●	●	●	●	・建物の耐震化の支援	
	c 近隣の建物と連携したBCP性能の向上を 図る	・沿道ビルは、築年数の経過などを踏まえても個別 の建替え・利用継続が今後も見込まれ、防災の対 応にはビル間での連携した取組が必要 ・西Cゾーンでは、北海道／札幌の重要な公共拠 点施設が立地しており高い防災性が求められるが、 エリアとしてのBCP対策はない	●	●	●	●	・地域主体のまちづくり活動の促進(地権者間 のまちづくり検討支援 等) ・再開発等の機会を捉えたエネルギーネット ワークの拡充 ・地域の特性に応じたまちづくりビジョンの策定 などによるまちづくり	
	d 大通公園や地下街の防災機能を強化する	・安全確保計画に定められている一時滞在施設等 がバスセンター前駅の地下鉄・エコースのみである ・対象エリアは豊平川の浸水想定区域に位置して いる	●	●	●	●	・大通公園の在り方の検討 ・地下街の防災性向上	

第5章 重点的に進める取組

5－1. (仮) 重点的に進める取組

次回（第5回）検討会にて提示予定

第6章 取組の方向の推進体制

6 - 1. (仮) 取組推進に向けた推進体制 (PDCA方針)

次回 (第5回) 検討会にて提示予定